

「こおりやまの米」通信



※即購をゼロに



毎月8日は『こおりやま「お米の日」』

豊かな自然と気候に恵まれた、県内一のお米どころである郡山の美味しいお米をたべましょう！

Vol. 3 田植後～本田初期管理

* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。



こおりやまの米通信

検索

1 本田初期の水管理 ～還元障害軽減のために～

活着後は水深3cm程度の浅水管理とし、分けつを促進しましょう。

異常還元(ガス湧き)が発生したら、数日間落水し、土壌中に酸素を供給しましょう。なお、生育促進のための窒素追肥は倒伏のおそれが高まるので厳禁です。

2 雑草防除 ～除草剤散布は数日早めに～

除草剤は、散布してから処理層を形成し、効果を発揮するまで4～5日程度かかります。ほ場のノビエの葉齢が、除草剤の効く葉齢より0.5葉(2～3日)くらい前の時期に除草剤を散布するとより効果的です。散布時は湛水状態を保てるよう十分に深水とし、7日間は止水してください。

一発除草剤の散布後に雑草が残った場合は、雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ノビエだけが残った場合

⇒クリンチャーEW: 移植後20日～ノビエ6葉期(但し、収穫30日前まで): 100ml/10a希釈水量25～100L/10a

⇒ヒエクリーン1キロ粒剤: 移植後15日～ノビエ4葉期

(但し、収穫45日前まで): 1kg/10a湛水散布

ノビエ以外の雑草も残った場合

⇒アトトリ1キロ粒剤: 移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期(但し、収穫45日前まで): 1kg/10a湛水散布

広葉雑草だけが残った場合

⇒バサグラン粒剤(ナトリウム塩): 移植後15～55日

(但し、収穫60日前まで): 3～4kg/10a落水散布、

又はごく浅く湛水して散布

熱中症にご注意！！

曇りや雨の日でも熱中症になる可能性があります。こまめな休憩と水分補給を意識的に行うよう心掛けてください。



藻類・表層はく離対策

気温の高い年の発生量が多く、多発すると水温上昇を妨げる、除草剤の拡散が阻害されるなどの害があります。また、直播栽培では苗立不良の原因ともなります。水深が深いほど発生量が多くなるので、浅水管理としましょう。

【対策1】除草剤

農薬登録で適用のある一発除草剤(エンペラー1キロ粒剤等)を発生前に使用し発生を抑制する。

発生した場合には、モグトン粒剤を湛水散布する。散布量は、藻類には2～3kg/10a、表層はく離には1～2kg/10aです。

【対策2】水の入・排水

藻類→ほ場の水を入れ替える。

表層はく離→田面水を排出し、2～3日後に土壌が落ち着いてから水を導入する。

【対策3】天候に応じ様子を見る

表層はく離は、梅雨に入ると雨に打たれ自然に消滅します。また、藻類は水温が30℃を超えると死滅します。

【対策4】来年に向けて

リン酸やケイ酸が多いと発生が多くなるので、土壌分析を実施し過剰な施肥は避けましょう。また、全層施肥から側条施肥への変更により発生が減少します。

水持ちが良すぎる場合も発生が多くなるので、過剰な耕起や代かきは避けましょう。

道路に泥を落とさないよう注意を！

トラクター・田植機での農作業の後、水田から公道に出る際には、機械についた泥などを落としてから走行するよう、お願いします。

道路に落ちた大きな泥のかたまりは、通行の妨げになり、滑りやすく交通事故の原因にもなり、大変危険です。



3 中干し

～有効茎が確保されたら、遅れずに実施しましょう～

中干しは、無効茎の抑制により茎を太くさせる効果や、還元状態となっている土壤に酸素を供給し根の活力を高める効果により、登熟の向上を期待して実施します。

近年、開始が遅れているほ場が多く見られるので注意してください。特に出穂の早いふくひびきは、中干し終了の時期も早くなるので、中干し期間を確保するために開始が遅れないようにしましょう。

中干し開始は、有効茎確保時となりますが、葉鞘に隠れ確認できない茎を考慮し、有効茎数の8割程度を確認したら速やかに開始してください。

有効茎数は品種や栽培方法により異なりますが、㎡当たり、コシヒカリ430本、天のつぶ460本、里山のつぶ480本、ひとめぼれ510本、ふくひびき380本前後です。

中干し開始の目安は栽植密度により変動し、株数が50株/坪で、目標とする有効茎数が450本/㎡の場合は、中干し開始は1株当たりの茎数24本が目安です(下表参照)。

表 中干し開始時の茎数の目安* (本/株)

有効茎数(本/㎡)		350	400	450	500	550
株数(株/坪)	株間(cm)					
37	29.7	25	29	32	36	39
43	25.6	21	25	28	31	34
50	22.0	18	21	24	26	29
60	18.3	15	18	20	22	24
70	15.7	13	15	17	19	21

*有効茎数の8割となる株当たり茎数

茎数を確認する場合は、生育が旺盛な畦畔際を避け、数m入った場所の平均的な株を数えてください。

【農薬の適正使用をお願いします】

- 使用時は農薬ラベルの使用法を確認しましょう。
- 農薬の使用履歴を都度記入しましょう。
- 水稻育苗ハウスの後作で野菜類を栽培する場合に、育苗ハウス内で苗箱処理剤を使用する際には、土壤に移行しないように散布しましょう。

【需要に応じた米の生産をお願いします】

令和5年産米の価格安定のため、主食用米の作付けは昨年並みの面積となるよう作付転換への御協力をお願いします。

これからでも間に合う転換作物として、主食用米と同様に作付けできる飼料用米がおすすめです。

4 いもち病対策

予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。移植時に箱粒剤を使用していない水田では、オリゼメート粒剤(初発の10日前～初発時、ただし収穫14日前まで)などを散布しましょう。

5 イネドロオウムシ対策

本田でイネドロオウムシが発生した場合は、発生初期が防除時期です。遅れないように、スチオン粉剤3DL(3～4kg/10a)や、なげこみトレボン《水溶性容器4～6個(200～300ml/10a)》などで防除しましょう。

6 斑点米カメムシ類対策 ～越冬卵に注意～

4年産は天候の影響もあり、斑点米被害が少なかったですが、気を緩めず今年も対策を徹底しましょう。

越冬世代が成虫になる前の草刈りや除草剤の散布により、餌となる畦畔等のイネ科雑草を制限し産卵を抑制しましょう。そのためには、草刈り第1回目は成虫が増え始める5月下旬～6月上旬までに実施しましょう。特にアカスジカスミカメが好む、ナギナタガヤ、スズメノテッポウ、イタリアンライグラスの除草を徹底してください。

その後、月1回程度の草刈りを継続してください。ただし、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、草刈りは出穂10日前までとします。



刈り払い機の使用前には、刈刃のヒビや固定を確認しましょう！

4/1～5/31 春の農作業安全運動展開中！

春の繁忙期にはトラクターによる農作業事故が多く発生しています。次のポイントを守り、安全・安心な農作業を実践しましょう！

- 余裕を持った作業計画を設定する。
- 一般道を通行する際は、「低速車マーク」や「反射板」を取り付け、必ずブレーキを連結する。
- 安全フレームを必ず立てて使用し、ヘルメット、シートベルトを着用する。
- 定期的に点検整備を実施する。
- 傾斜地や法面など危険な場所はあらかじめ確認し、慎重に作業する。
- 一人作業の場合は家族に行き先を伝え、電話を携帯する。